

コロナに負けない

ヒューストン補習校リモート授業

幼稚部編

幼稚部では、幼稚園教育要領などを基に補習校の実態に合わせてカリキュラムを作成し、指導にあたっています。このカリキュラムは固定的なものではなく、子供の発達段階に見合ったものであるか、また本当に実行できているかどうか確認しながら、常に見直しをしています。今年度はCOVID-19の感染拡大のため自宅待機令が下り、多くの子供たちが家中で過ごすことになりました。そんな子供たちに補習校の教室で行っていた元来の指導がどのような形で提供できるのか、教員同士で何度も話し合い、アイディアを出し合って、現在のリモート授業が始まりました。

(文責: 幼稚部教員一同)



1. 幼児へのリモート授業導入の課題

リモート授業を開始するにあたって、まず一番懸念したことは、使用予定の教材がリモート授業に適しているかどうかということでした。どのような教材が適しているのか全く予想がつかず、今ある教材でとにかくやってみようということになりました。また、普段の教室での活動の中で、これなら画面越しでも楽しくできるのではないかという活動を一つ一つ、試行錯誤しながらやってみることにしました。



2. リモート授業で留意したこと

リモート授業の為に考慮した点は、制作の時間を毎週確保したり、日本の行事や祝祭日の説明をする時は言葉だけでなくスライドを使用し、画面を見て理解できるようにしたことです。そして、子供たちに話しかける時はゆっくりはっきりした発音を心がけました。どのようなスタイルが視覚的に分かりやすいのか、また、技術的なことも実際やってみないと分からないうことが多い、例えば、画面で紙が反射し、子供たちから見えにくいうことがあると、子供たちの集中力が途切れてしまうことがありました。そんな時は小さな遊びや出し物を素早く取り入れて、子供たちの気持ちを切り替えながら授業を進めるようにしました。



授業は普段教室で行っている指導と同じ内容です。文字や数の練習、歌、リズム遊び、季節の制作、読み聞かせなど、リモート授業では1単位30分の対面時間と

30分の自学時間と休憩を繰り返し、合計1日5単位行っています。文字の時間は読み方や書き方を覚えるだけではなく、その文字がつく言葉を子供たちと一緒に探したり、また各ご家庭からその文字のつく物を探すゲームをして、探したものを画面で共有し、友達や教師と伝え合ったり、母の日や父の日には、お母さんやお父さんにインタビューし、好きなものや好きなことを聞いてそれを発表したり、家にいながらできるリモート授業だからこそ活動も授業を取り入れました。また手作りの教材を用いて視覚的に楽しく身近な物の数量や図形(文字)に興味がもてるような時間をどのクラスでも確保するようにしました。読み聞かせは子供たちが毎週一番楽しみにしている時間のようで、『先生絵本読んで』という声がどのクラスからも頻繁に聞こえてきます。子供たちの大好きな読み聞かせの時間を優先的に確保し指導計画を立てました。



3. リモート授業を実施しての成果や課題

ずっと画面の前に座ったままの授業形態にならないよう、手遊びや体を動かすリズム遊びを活動の中にできるだけ盛り込み、本来座って行う文字の時間も、動きのある探し物活動や家族と触れ合う時間を取り入れたことで、子供たちのやる気が増し、最初は15分も集中力が持たないだろうと思われた幼児が、今では1時間目から5時間目までしっかりと集中力を維持することができるようになりました。

また、教室ではつい見逃してしまいがちな子供たちのつぶやきや一人一人の表情がリモート授業では画面越しに瞬時にこちらに伝わってくるので、教師が個々の様子を的確に捉えることができるようになり、むしろ教室での指導よりも細やかな対応をすることができるのではないかと考えています。



さらに、リモート授業での子供たちの様子は、お互いが緊張して始まった当初に比べ、今では子供たちにとってリモート授業は特別な状態ではなくなってきたことがはっきりと分かり、画面越しに先生や友達と自然に会話を

して交流するようになって、言葉による伝え合いを楽しむ姿が見られてきました。最近ではお話を聞く時と話す時の区別も徐々についてきており、発達段階にあつた目指すべき授業態度に少しずつ近づいてきているのではないかと思います。

幼児教育の根幹は遊びを通じた総合的な指導です。幼児教育をリモート授業で行うのは無理ではないかという様々な懸念もあり、実際入園を見合わせた家庭も数件ありました。前述のような活動内容の工夫を行いながらも、どうしたら子供自身が遊びを通して、自ら考え、興味を広げ、気づき、発展させていくのか、子供たちの「やってみたい」と思う気持ちを引き出すにはどんな工夫が必要なのかを常に念頭におきながら指導内容を考えることが幼稚部教員共通の課題です。これは教室での指導でもリモート授業でも同じことが言えると思います。

幼児に対するリモート授業は、保護者のご協力なしでは実現しませんでした。感謝の気持ちを忘れず、今後も子供たちのために何ができるかを最優先に考えて指導を行っていきたいと思います。

